# No. 948

# 近づく沖縄返還の日

日米両国政府は２月15日、首相官邸で福田外相、マイヤー駐日大使らが出席し、佐藤首相も同席して「琉球諸島および大東諸島に関する日本とアメリカとの間の協定」（沖縄返還協定）の批准書の交換式が行なわれました。
この協定により二カ月後の５月15日、沖縄が日本に復帰する日米間の法的手続きが完了し、27年間に及ぶ「異民族統治」に終止符が打たれます。しかし、この「沖縄返還協定」は戦後の日米安保体制および1969年の日米共同声明をささえとしているだけに、巨大な沖縄米軍の基地機能をほとんどかかえ込む結果となり、現在の国際情勢に対比して新たにその意味ずけが問われています。

# 死の総括

## ―連合赤軍リンチ殺人事件―

群馬県下の三つの山岳アジトに集結した「連合赤軍」は20人を越えるとみられていた。あさま山荘でつかまった坂口、坂東、吉野、さきに逮捕ずみの赤軍派最高幹部森恒夫、京浜安保共闘永田洋子、他の残りは地下にもぐって逃走中である。
……が、公安当局が血まなこになって捜しても一向に行方がわからなかった残りの一味は、リンチで〝粛清〟殺害されていた。アジト近くの山林から次々と掘り出される男女の全裸死体、〝総括〟という名の死の制裁、「あさま山荘事件」で日本中をふるえあがらせた連合赤軍は新たな恐怖を覚えさせた。
一昨年４月、日航機の乗っとり事件で一躍〝有名〟になった彼らは以来、銃砲強奪、銀行強盗、爆弾テロなどをくり返し、世間の人々をふるえあがらせた。何のかかわりもない人を平気で殺害して来た彼らは、自からの仲間も簡単にリンチ殺人をやってのけた。
「男女の関係を乱した」「〝チリ紙を取って〟と甘えた」「車の運転が下手だ」〝総括〟される理由は単純だった。しかし、殺し方は残酷をきわめた。氷点下10度を越える雪中に手足をしばったまま放りだした。ナイフで犠牲者の心臓をえぐり切った。
２月28日、浅間山荘事件が解決して一週間、３月７日には山田孝の遺体発見、そして金子、山本、大槻……とその数は12人にものぼった。20数人にもの集団がどのようにして、仲間を〝死の総括〟したのか、まだ全容は明らかにされていない。連合赤軍はこれで壊滅したのか、このような集団が何故出てきたのか、全容の解明を待って今一度考えてみたい。